

## 第2回奈良市子ども条例検討委員会の概要

開催日時	平成24年4月27日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	奈良市役所中央棟5階キャンベラの間
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 年間スケジュールについて</li> <li>2 ワークショップ設置について</li> <li>3 アンケート調査内容について</li> <li>4 出前実態調査実施方法について</li> <li>5 その他</li> </ol>
出席者	出席委員5人（欠席委員1人）・事務局17人
開催形態	公開（傍聴人1人）
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを来年度も継続することを検討する。</li> <li>・ワークショップの名称を検討する。</li> <li>・ワークショップに多様な子どもたちが参加しやすい状況を工夫する。</li> <li>・アンケート調査について、小学5年、中学2年、高校2年を対象とし、別途大人向けのアンケートも実施する。</li> <li>・調査項目について、核となる質問を設定する。</li> <li>・出前実態調査は、特に支援を必要とする子どもに限らず、広く一般的に聞いていく。</li> </ul>
担当課	子ども未来部子ども政策課
<b>議事の内容</b>	
1	<p>年間スケジュールについて</p> <p>委員から条例案を精査していく段階で子どもの関与がないと指摘があり、条例で子どもたちの参画を進めていくとしたら、ワークショップを契機に子どものフォーラムを施策にしていくのもひとつという意見が出た。</p> <p>それに対して市は、来年度以降もワークショップを引き続き開催する予定であると回答した。</p>
2	<p>ワークショップ設置について</p> <p>委員から学校の枠組み以外の参加も求めるために参加者の要件を年齢で表現したほうが良いという意見が出た。</p> <p>また委員会とワークショップの位置づけについて、形式上は切り離れたとしても委員がワークショップに1～2回出ることが大事という意見が出た。</p> <p>ワークショップの名称について、参加者募集の際には子どもに分かりやすい名称にしたほうがよいという意見が出た。</p> <p>参加者の募集について、公募と推薦以外にスポーツ団体などにも声をかけ、多様な子どもが参加できる状況を工夫したほうがよいという意見が出た。</p>
3	<p>アンケート調査内容について</p> <p>委員からアンケート対象者について、子どもは小学5年、中学2年、高校2</p>

年が良く、また、子どもに限らず幅広い世代の意見を聞いたほうが良いという意見が出た。

それに対して、市は予算も含め、できるだけ調査できるように調整すると回答した。

アンケート項目について、コンセプトを明確にし、核になる質問、外せない項目、加えて家族観、子ども観を聞いていく項目を入れるくらいで、あまり欲張らないほうがよいという意見が出た。また、事前に聞き取りをして、項目を設定するほうがよいという意見が出た。

アンケートが、子どもが言いたいことを言えない状況を作らないものにするべきという意見と子どもが持っている生きづらさみたいなものが見えるものにしたいという意見が出た。

アンケート項目の細かな部分については、委員長と副委員長と事務局である程度の方向を出して、それから各委員とのやりとりで決めていくこととなった。

#### 4 出前実態調査実施方法について

委員から特に支援が必要な子どもに限らず、一般的な子どもにもインタビューすることで、より子ども観を表現できるという意見が出た。

また、子ども条例作成の際は、抵抗勢力や子どもに関わる利害関係者に先にインタビューしておいたほうがよいという意見が出た。

今年度は、ワークショップ、アンケート、インタビューを通して、総合的に子どもたちの実情を明らかにしていくということが決まった。